

# 一生涯を通した歯科保健対策の確立をめざして(15) フロリデーション(水道水フッ化物濃度調整)についての啓発活動

萩原吉則<sup>1,5)</sup> 鈴木 廣<sup>1,5)</sup> 市川智旦<sup>1,5)</sup> 横山高久<sup>1,5)</sup> 茂木忠泰<sup>1,5)</sup> 落合慶一<sup>1,5)</sup> 黒澤良介<sup>1,5)</sup> 峯岸博行<sup>1,5)</sup> 大竹丈一<sup>1,5)</sup>  
松本裕美<sup>2,5)</sup> 入山久美子<sup>2,5)</sup> 上原友美<sup>2,5)</sup> 飯ヶ浜一美<sup>3,5)</sup> 阪本 睦<sup>4)</sup> 岡部さち江<sup>4)</sup> 園部明美<sup>4)</sup> 伊原よし江<sup>5)</sup>  
小林清吾<sup>6)</sup> 田口千恵子<sup>6)</sup> 田浦勝彦<sup>7)</sup> 佐久間汐子<sup>8)</sup> 八木 稔<sup>9)</sup> 境 脩<sup>10)</sup>

<sup>1)</sup> 富岡甘楽歯科医師会 <sup>2)</sup> 富岡甘楽歯科医師会歯科衛生士 <sup>3)</sup> 富岡甘楽歯科医師会非常勤歯科衛生士 <sup>4)</sup> 下仁田町保健環境課  
<sup>5)</sup> 下仁田町フロリデーション推進会議 <sup>6)</sup> 日本大学松戸歯学部社会口腔保健学講座 <sup>7)</sup> 東北大学病院附属歯科医療センター口腔育成系診療科予防歯科  
<sup>8)</sup> 新潟大学歯学部総合病院口腔保健科 <sup>9)</sup> 新潟大学歯学部口腔生命福祉学科 <sup>10)</sup> NPO 法人日本むし歯予防フッ素推進会議会長

## 1. はじめに

平成元年に開始された8020運動は、今年で20周年を迎えた。運動は定着したが、相変わらず目標達成には程遠い状況が続いている。8020運動の基盤整備のためには、歯を失う原因の約9割を占めるむし歯と歯周病に対する効果的な予防対策が必要不可欠である。むし歯予防対策としては、フッ化物の利用、特に公衆衛生的な方法の普及が重要である。また、歯周病予防対策としては、学齢期の歯肉炎予防対策の充実、市町村や職場での成人歯科健診の充実、かかりつけ歯科医の機能を活用した定期管理の普及などが重要である。

富岡甘楽歯科医師会は、平成5年に「各ライフステージにおける歯科保健対策」を立案し、一生涯を通した歯科保健の確立をめざしている。その対策の内容は、乳歯のむし歯予防対策、永久歯のむし歯予防対策、児童生徒の歯肉炎予防対策から始まり、成人・高齢者の歯科保健対策、歯科訪問診療、訪問口腔衛生指導、心身障害者の歯科診療までを含む総合的なものである。その結果、富岡甘楽地区の歯科保健対策は確実に成果をあげてきた。しかし、対策の充実と共にその限界が見え、より効果的なむし歯予防対策の必要性が見えてきた。

そこで、既に60か国以上で実施され、世界中で4億人以上が恩恵を受けているフロリデーション(水道水フッ化物濃度調整)について検討した。フロリデーションは、最も優れた公衆衛生的なむし歯予防対策で、各種フッ化物利用の原点である。実施されれば、子供から高齢者まで給水地域で生活する住民すべてが、むし歯予防の恩恵を享受できる。今回は富岡甘楽地区で継続されているフロリデーションの啓発活動の経緯について報告し、今後の可能性について考えてみたい。

## 2. 甘楽町における「歯科保健シンポジウム in 甘楽」の開催とその後の経緯

甘楽町は、昭和61年に町内の全幼稚園でフッ化物洗口を開始した。平成2年度にはむし歯予防教室にフッ化物歯面塗布を導入し、子供たちのむし歯予防に大きな成果を上げてきた。歯科保健への取り組みが評価され、平成11年度の「群馬県歯科保健賞」を行政として初めて受賞した。平成12年6月、この受賞を記念して「歯科保健シンポジウム in 甘楽」(主催 甘楽町、共催 富岡甘楽歯科医師会・富岡保健福祉事務所、参加者 約450名)を、「一生自分の歯で食べるために」というテーマで開催した。馬場錬成氏(読売新聞社論説委員)をコーディネーターに、境脩氏(福岡歯科大学教授)、小原博人氏(毎日新聞社編集委員)、村田幸子氏(NHK解説委員)、萩原吉則(富岡甘楽歯科医師会専務理事)がシンポジストとして参加した。フッ化物の利用やフロリデーションの必要性について意見が一致し、一般参加者の共感も得られた。このシンポジウムには下仁田町で活動の中心になる人たちが参加していた。

シンポジウムの結果を受け、富岡甘楽歯科医師会は、平成12年8月に「上水道への適量のフッ化物添加を求める請願書」を甘楽町議会宛に提出したが、2回の継続審議の末、平成13年3月議会で時期尚早という理由で不採択になった。

その間、平成12年10月には、富岡甘楽歯科医師会主催で韓国のフロリデーション視察研修(参加者20名)が実施された。陝川の浄水場のフロリデーション施設を見学し、釜山大学の金鎮範教授から説明を受けた。

## 3. 下仁田町への歯科保健活動助成の交付(平成15年度から18年度)とフロリデーション推進の経緯

下仁田町では、昭和63年度から幼児健診にフッ化物歯面塗布を採用した。また平成5年度からは町内の全保育園でフッ化物洗口を開始し、子供たちのむし歯予防に大きな成果を上げてきた。平成14年度には「健康しもにた21」計画を策定し、平成15年6月に、「平成14年度群馬県歯科保健賞受賞記念 歯科保健シンポジウム in 下仁田」を開催し、生涯にわたる歯科保健対策の充実に取り組んでいる。

下仁田町は、平成15年度から18年度まで4年連続で、財団法人8020推進財団から歯科保健活動助成の交付を受けた。8020推進基盤整備事業の一環として、健康づくり推進協議会の専門部会として「健康しもにた21『8020』推進委員会」が組織された。平成16年3月に、本委員会は「フロリデーションが、有効性、安全性、実用性において、各種フッ化物応用の中で最も優れた公衆衛生的な方法である」とこと、「実施にあたっては、住民に科学的根拠に基づく正確な情報を十分に提供し、住民の理解協力を得る必要がある」とことの2点を趣旨とする提言を「健康づくり推進協議会」に提出した。

この提言を受けて、平成16年度には住民の理解協力を得るための具体的な方法について検討を重ねた。その結果、平成17年1月には日本口腔衛生学会監修、下仁田町・富岡甘楽歯科医師会発行のフロリデーションのパンフレットが完成した(19,000部印刷し、全世帯に配布)。また2月には、厚生労働省科学研究班の技術支援を受け「ふれあいセンターフロリデーションモデル事業」を実施することが決定した。

平成 17 年 4 月には、下仁田町のフロリデーショント推進にかかわってきた歯科医師、薬剤師、歯科衛生士の専門職を中心に、「下仁田町フロリデーショント推進会議」が発足した。代表には富岡甘楽歯科医師会の前会長が就任し、歯科医師会と連携しながら活動を続けている。

7 月には、ふれあいセンターに「フロリデーショントモデル装置」が設置され、1 階と 3 階のホールに設置されたウォータークーラーや 2 階の調理室などで、フッ素濃度 0.8 ppm 以下に調整された「フロリデーショント水」を自由に利用できるようになった。町長など関係者約 40 名が参加して完成報告会が開催された。また、9 月には「広報しもにた」で「フロリデーショント水を飲みま保健センターへお出かけください！」という見出しで住民にも紹介された。11 月に、ふれあいセンターにおいて開催された健康祭には、約 500 人が来場した。来場者のほとんどがフロリデーショント水の試飲を体験し、ペットボトルに水を入れて持ち帰った人も 251 人いた。参加者の反応は概ね好意的だった。

下仁田町フロリデーショント推進会議が提出した「フロリデーショントの普及をめざした啓発活動の推進に関する陳情書」が、平成 18 年 3 月の下仁田町議会で趣旨採択になった。そこで、6 月に富岡甘楽歯科医師会と下仁田町フロリデーショント推進会議の連名で要望書を提出し、議会でのフロリデーショント説明会(7 月)、町職員のフロリデーショント研修会(8 月)、保健推進員の研修会(10 月)等を開催した。

平成 19 年 2 月、下仁田町フロリデーショント推進会議と富岡甘楽歯科医師会は、「フロリデーショント(水道水フッ化物濃度調整)の早期実施を求める陳情書」を下仁田町議会に提出した。3 月初旬に、フロリデーショントの実施を求める下仁田町民 266 名が連名で、下仁田町長と議長宛に「フロリデーショント(水道水フッ化物濃度調整)の実現を願う要望書」を自主的に提出し、陳情書の採択を求める活動を始めた。陳情書は 3 月議会で継続審議になり、6 月議会で審議されなかったため採択にいたらなかったが、この住民の自主的な支援はその後の歯科医師会の活動のよりどころになっている。また、要望書提出の中心になった人たちは、フロリデーショント推進会議に参加し、現在も地道な活動を下仁田町内で継続している。

#### 4. 富岡甘楽歯科医師会への歯科保健活動助成の交付とフロリデーショント啓発活動

平成 19 年度からは、富岡甘楽歯科医師会が主体になり、2 年連続で歯科保健活動助成の交付を受け、下仁田町での活動を継続しながら、管内他市町村の住民を対象にした啓発活動にも、これまで以上に積極的に取り組んでいる。

平成 19 年 4 月に富岡甘楽歯科医師会主催の公衆衛生研修会を開催し、フッ化物を利用したむし歯予防についての知識を再確認し、フロリデーショントの実施をめざす歯科医師会の姿勢を明確に示した。

住民啓発の媒体として、フロリデーショント啓発ポスター「知っていますか？ フロリデーショント」(B2 版)を 4 種類(下仁田町内掲示用 3 種類、管内他市町村掲示用 1 種類)制作し、公共施設や医療機関、薬局、店舗等への掲示を依頼した。また、チラシ「知っていますか？ フロリデーショント」(A4 版)を 2 種類(下仁田町内配布用と管内他市町村配布用)制作し配布している。さらに、「フロリデーショント問答集」を発行するための準備として、下仁田町議会に対する説明会、住民を対象とした学習会・研修会等において、議員や住民から出た疑問点を整理し、編集のための資料集めを行ってきた。

活動から派生した成果として、㈱アイ・メディカルの企画商品として、「知っていますか？ フロリデーショント」のポスター 3 種類のデザインが、名入れ可能なクリアファイルとして発売された。現状では、住民を啓発する以前の問題として、歯科医師自身のフロリデーショントに対する認識不足がある。全国の歯科医院にカタログが定期的に配布され、歯科医師がフロリデーショントを再認識するきっかけになることを期待している。

#### 5. 「歯の健康フェア 2008」の開催と来場者へのアンケート調査

平成 17 年度以降、6 月の第一日曜日に開催される「歯の健康フェア」の会場にフロリデーショントコーナーを設け、パンフレットの配布やフロリデーショント水の試飲体験等を通じた啓発を続けてきた。今年度は、「知っていますか？ フロリデーショント」をテーマに「歯の健康フェア 2008」(第 23 回)を開催した。会場において自記式質問用紙によりアンケート調査(回答数 99)を実施した。回答者の性別は、男 18、女 81。住所は、富岡市 75、甘楽町 11、下仁田町 2、南牧村 1、その他 10。年齢は、10 歳代 12、20 歳代 4、30 歳代 53、40 歳代 19、50 歳代 3、60 歳代 3、70 歳代 3、80 歳代 2 だった。

- ・フロリデーショントについて知っていましたか？ 知っていた 55、知らなかった 42。
- ・フロリデーショント水を飲みましたか？ 飲んだ 98、飲まない 1。
- ・いつも飲んでいる水と比べて、味はどうでしたか？ おいしかった 37、変わらない 58、おいしくなかった 3。
- ・またフロリデーショント水を飲みたいですか？ 飲みたい 72、どちらでもいい 22、飲みたいくない 3。
- ・あなたのお宅の水道からフロリデーショント水が出るとしたらどうですか？ うれしい 87、わからない 10、いやだ 1。

#### 6. おわりに

これまでの活動の体験から、初めてフロリデーショントについて知った住民の反応は、比較的好意的なものが多いことが分かった。これまで日本では情報提供がほとんどないため、フロリデーショントについて全く知らない人が多い。市町村や歯科医師会主催の事業において、フロリデーショントについて正確な情報を継続的に提供していくことが、歯科医師会の責務だと考える。啓発活動により住民の理解と幅広い支持が得られれば、フロリデーショント実施のために必要不可欠な条件である市町村長の理解と議会の承認が得られ、フロリデーショントを実施できる環境が整うと考えている。今後も富岡甘楽歯科医師会が主体になり、市町村、関係諸団体と連携しながら、フロリデーショント啓発活動を継続していくつもりである。